

市民リポーター

新鮮で安全な地元産品を提供



学習会や情報交換は欠かせません
(中央が小畑リポーター)

リポーター 小畑 昭子さん
(四羽出)

J A あきた北女性部では、東台と二井田の二か所に野菜直売所を開設しています。名称は「みどりの市場」。現在の会員は八十名で、開店以来今年で五年目になりました。その出発点は、家で食べきれない野菜を販売し、いくらかでも収入の足しにしようということと、販売活動を通して女性部の活性化を図るということでした。

私が所属している二井田店は、県道比内田代線沿いに位置しています。ここには、真中地区と二井田地区から四十二名が参加しています。このうちの数人が卸売市場

に野菜を出荷している程度で、ほとんどの人が販売経験を持っていません。そのため、分量、価格のつけ方、包装、伝票の書き方など、すべてわからないことだらけで、戸惑うことばかりでした。また、普通商品と加工品の区別もつかず、保健所から講師にきていただき勉強会も開きました。そんな中で大変役立つのは先進地視察です。これは、会員によって毎年実施されています。

最初は、店頭に立って消費者のかたがたと直接向き合う行為そのものが大変なことでした。「いらつしやいませ」「ありがとうございます」「言葉、何だか恥ずかしい気がしたものです。ときには何げなく言った言葉がお客様の心を傷つけてしまうということもあり、接客マナーの難しさを痛切に感じさせられました。それでも「トマトおいしかったよ」「漬物がなつかしい味だったよ」などと、わざわざ電話をいただいたり、街で声をかけられたりすると、また

明日から頑張ろうという気持ちになります。最近では、笑顔での応対にもなれ、お客様とのふれあいを楽しんでいるようです。

一番大事なことは、いつも新鮮で、安心して食べていただける品物を提供することです。そのため、長期保存できる品物を除き、売れ残った野菜や漬物類は翌日に持ち越さないことに決めました。また、年一回開催される「ごくろうさま会」には、良質のものを生産するための学習会を開いたり、会員相互の情報交換を密にしたりするなど、真剣に取り組んでいます。

開店当初は、家にある野菜を持ち寄るだけで品数が少なかったのですが、最近では、野菜のほかに中国野菜の漬物、くだもの、肥料、ジュース、卵、カプトムシまでと、品数も増え、どのようにすれば消費者のニーズに答えられるかを考え、いろいろな商品にチャレンジしているのが見受けられます。消費者のかたがたの声を聞くということで、昨年は市場に投書箱を設置したところ、大変厳しい意見や励ましのお言葉をいただきました。経済活動がともなうことには、様々な問題が出てきます。そのため、何か問題があるたびごとに、いつも今一度原点に返って考え、

最後に!!

健康で美しく生きるために必要なことは、まず体に良い食事と適度の運動(労働)、そして睡眠。それから忘れてならないのが「生きがい」だといわれています。何かに熱中しているとき、人は生き生きと心身ともに充実した気持ちになれると思います。このような私たちの心が、消費者のかたがたにいつかは通じると考え、頑張っています。現在「みどりの市場」は、パイプハウスを利用しており、冬期間は運営していません。会員は早く常設の直売所が欲しいと頑張っています。市民の皆さん、ぜひ一度私たちの「みどりの市場」を覗いてみてください。それとともに、一日も早く常設できるように応援してください。



みんなでコミュニケーションを図りながら、一步一步進んでいます。